



平成22年5月10日

卓話 『カンボジアの子ども達の笑顔のために
～28歳女性が社会起業で児童買春問題に挑む～』

特定非営利活動法人かものはしプロジェクト 理事代表

村田 早耶香 様

私は19歳の時に東南アジアに行き、児童買春の実態を見て何とかしたいと思い、20歳の時に仲間と3人で団体を立ち上げました。本日は私たちが目指している社会的起業とカンボジアでの児童買春の問題、団体発足の経緯と活動内容をご紹介します。

社会的起業は社会問題を解決するためにビジネス的手法を用いるもので、世界的に有名なムハマド・ユヌスはバングラデシュの貧困をなくすために少額の融資を無担保で行って沢山の人が救われています。日本でも「いろどり」という徳島の会社は、人口の半数が65歳以上という町で料理に添える葉っぱをお年寄りが出荷する取り組みで過疎化を無くそうとしています。

カンボジアは人口約1400万人、主な産業は観光と農業です。街はコンクリートの建物が立ち並び車やバイクが行きかっていますが、農村部では道路は未舗装、高床式の家がぼつぼつという状況で、非常に生活レベルに差があります。カンボジアは70年代から内戦が始まり、75年からポル・ポト政権では4年の間に知識層中心に150万人が虐殺されました。08年でも18.7%の人が貧困ライン以下の生活で、農村では貧しさのために親が子供を出稼ぎに出す中で子供たちは騙されて売春宿に売られたりしています。被害者の収容施設には幼稚園児ぐらいの子もいて、逃げようとしたら殴られ電気ショックを与えられて、

柱に縛られ食事も与えられず、逃げ出すこともできなかったそうです。

私は大学生の時、このような状況を何とかしようと活動を始め、世界会議にも出席しましたが、実際に現場で状況を変えとか法律を変えないと解決できないと思いました。また日本の既存の団体では取り組みをすることがなく、自分で団体を立ち上げようと思っていた時、仲間と出会いました。この2人から仕事としてやっていくことを提案され、02年7月に団体を立ち上げました。最初は親にも反対されましたが、人生でやりたいことが見つかったんだからと説得して認めてもらいました。

具体的な活動内容は一つ目がコミュニティー・ファクトリー。子供が売られる一番大きな原因が農村の大人に仕事がないことです。そういう家庭の女性を雇用して雑貨を作り観光客に売っています。一家が1ヶ月間生活できる、月3千円以上の収入をサポートし、現在40世帯から人を受け入れています。二つ目は人身売買の被害者の孤児院への受け入れ。三つ目は内務省にお金を出して加害者を取締まる警官への訓練を行っています。こういったカンボジアでの事業を支えるために日本で企業のウェブサイトを作る事業を行っていて、この収益が5～6割、支援者からの寄付、会費が4～5割という状況です。この収益のおかげで事務局経費や人件費を捻出することができます。

貧しさが無くなり、取締りを行えば児童買春は必ず減ります。より多くの方に現状を知っていただき、活動に参画していただきたいと思っています。

ありがとうございました。

